

蒲田と ともに 発展した 96年

2026年3月、
東京計器本社は蒲田から移転し、
羽田へと拠点を移します。
96年の歴史を振り返りつつ、
蒲田の地で発展した
当社の姿などをご紹介します。



現本社



新築記念の絵葉書。右上にあるのは東京計器製作所のロゴマーク

「諸君、わが東京計器製作所が新築落成し、惜しくも旧工場を捨てて今日斯くの如き見事なる大工場に移転し得るは諸君とともに満悦に耐えざるところなり——」

創業者 和田による落成式のスピーチより（一九三〇年）

1930年

竣工 蒲田工場

東京の小石川（現在の東京都文京区）で創業した当社。このころはジャイロコンパスなど現代にもつながる製品が生まれ始め、会社の発展が見込まれていた。しかし、小石川工場は増築の余地がなく、また当時の東京市は工場拡張が禁止されていたため、新天地を探すことに。

そこで、市外である東京府荏原郡蒲田町に40万㎡の田畑を購入し、蒲田に新しい拠点を構えることとなった。



蒲田工場爆弾跡



カラーダイナミックス

1950年

再建へ 戦火をくぐり

第二次世界大戦の折、空襲で壊滅的被害を受けた当社。夜間攻撃だったので、人的被害は負傷者2名と奇跡的に少なかったものの、消火活動が間に合わず、一夜でほぼ全建物に燃え移った。

戦後、残った設備で日用品などを作りながら徐々に舶用機器や航空機器の需要に対応し、会社復興へ向かう。

1950年には我が国初となるカラーダイナミックス採用の工場に。工場内の走行レーンをクリーム色、壁を淡緑色、天井を淡青色、機械本体を緑色などとし、作業効率の向上、作業環境の改善、安全衛生管理の充実を図った。



竣工当時の入口



竣工当時の上空写真

1990年

テクノポート・ カマタの竣工

建物の老朽化など、蒲田を主力工場とすることが厳しくなったため、工場機能を栃木県にある佐野・那須・矢板の3拠点に移転。蒲田は技術・管理機能を集約させることになった。

1990年、蒲田本社敷地開発が完了し、株式会社トキメックへの社名変更と合わせて「テクノポート・カマタ」を竣工。2000㎡以上の緑地など環境整備にも力を入れ、地域社会の利便性向上のため、周辺に歩道を提供するなど、地域活性化に寄せた再開発となった。